

平成23年度鹿児島市学校教育研究大会に係る研究実践経過（中間報告）

| | | | | | |
|------|---|-----|-------------|------|--------|
| 学校番号 | 1 | 学校名 | 鹿児島市立吉田北中学校 | 校長氏名 | 谷口 幸一郎 |
|------|---|-----|-------------|------|--------|

1 研究主題

「一人一人に確かな学力をつけるための教育活動の実践」（2 / 2年次）
 ～小中連携教育の取組を通して～

2 研究主題設定の理由

本校生徒は、明るく素直・純朴であり、基本的な生活習慣が確立されている。授業や学習に対して意欲的に取り組む生徒が多く、NRTなどをはじめとする諸学力検査等の結果でも一定の水準を維持している。

平成20年・21年度には、「一小一中」の校区の特性をいかし、同一敷地内に隣接する吉田小学校と市教育委員会の研究協力学校の指定を受け、『児童生徒がいきいきと活動し、学びを高める小中連携の在り方』の研究主題のもと、小中連携教育研究を推進してきた。そして、平成21年11月には、実践を公開し、一定の成果を上げることができた。

また課題として、生徒数が少ないため、生徒間同士の深い交流は行うことができるが、集団の中で主体性や社会性を発揮することが苦手で、自分の思いや意見を他者に伝える能力や、自ら判断して問題を解決する力がやや不足している点や、教科や学習分野によっては、個別の支援や指導が必要な生徒も一部にいる点などが挙げられる。

そこで、本年度もこれまでの「小中連携」の視点は継承しながら、学力向上に重点を置いて、研究主題（『一人一人に確かな学力をつけるための教育活動の実践』2 / 2年次）を設定した。

3 研究仮説

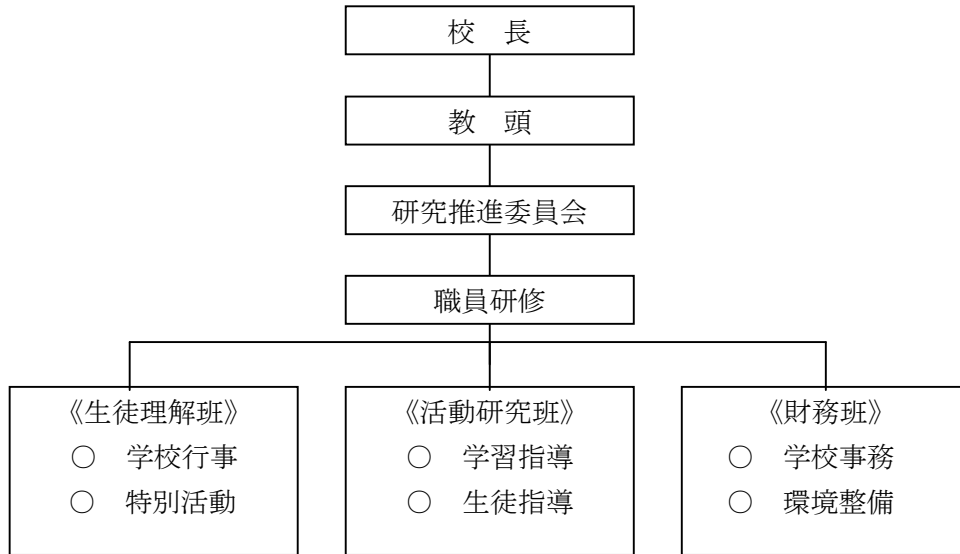
| | |
|-----|---|
| 仮説Ⅰ | 教科、道徳、特別活動そして「総合的な学習の時間」の全教育活動の在り方を計画的、組織的に検証し、改善することで「自ら学び、考え、判断し、問題を解決する力」、つまり『生きる力』を培うことができるのではないかと。 |
| 仮説Ⅱ | 継続的な小中連携により、学びの系統性をふまえた学習活動を展開することで、個に応じた指導が充実し、確かな学力が身に付くのではないかと。 |

4 研究内容

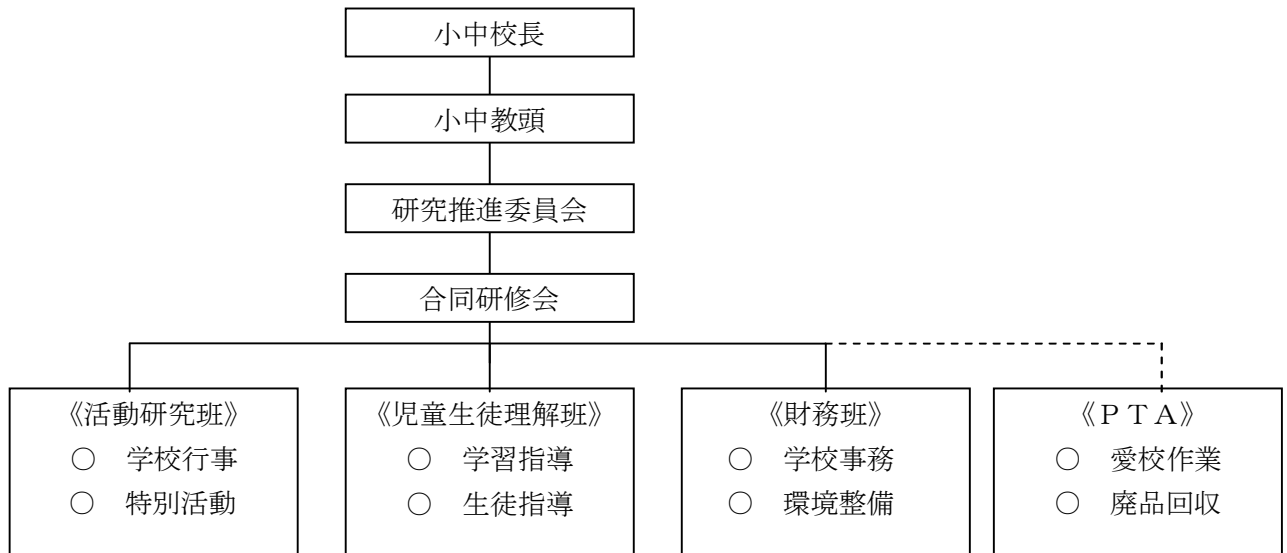
| | |
|-------|--|
| テーマ研修 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 諸教育活動の実践及び課題解決 ○ 小中連携による教育活動の在り方 ○ 生徒同士が互いの存在を認め合う学習活動や学習形態の工夫 |
| 一般研修 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報連携から行動連携への転換を図った生徒指導の在り方 ○ ICT機器を活用した授業の在り方 |

5 研究組織

《中学校研究組織》



《小中連携研究組織》



6 研究計画 ◎印は小中合同研修

| 回 | 月 | 日 | 会場 | 研修領域 | 研修内容 |
|---|---|----|-----|---------------|------------------------------------|
| 1 | 4 | 11 | 小学校 | テーマ (全体研修) | ○ 今年度研究テーマの確認 ○ 研究班及びメンバーの決定 など |
| 2 | 4 | 25 | 小学校 | 一般 (生徒指導) | ○ 生徒指導事例研修 ○ 家庭訪問後の事例報告 など |
| 3 | 5 | 2 | 中学校 | 一般 (学校安全) | ○ 危機管理システム ○ 不審者・安全対策 |
| 4 | 5 | 30 | 小学校 | テーマ (学力向上) | ○ NRT分析 ○ 各教科の取組状況の確認及び協議 |
| 5 | 6 | 13 | 小学校 | テーマ (学力向上) | ○ 小学校研究授業・授業研究 |

| | | | | | |
|----|----|---------------|-----|-----------------|--------------------------------|
| | 6 | 13 ～ 19 | 小学校 | テーマ (学力向上) | ○ 小学校フリー授業参観 (小学校授業を中学校が参観) |
| 6 | 7 | 21 | 中学校 | 一般 (生徒指導) | ○ 生徒指導事例研修 |
| 7 | 7 | 22 | 中学校 | 一般 (生徒指導) | ○ 1学期の生徒指導事例報告 ○ 外部講師を招聘 |
| 8 | 7 | 22 | 中学校 | 一般 (希望研修) | ○ 1学期の生徒・学校の実態に基づいて設定 |
| 9 | 8 | 1 | 中学校 | 一般 (保健指導) | ○ 救急救命講座 ○ 心肺蘇生法・AED装置の取扱 |
| 10 | 8 | 1 | 小学校 | 一般 (合同運動会) | ○ 小中合同運動会 |
| 11 | 8 | 19 | 小学校 | 一般 (合同運動会) | ○ 小中合同大運動会 |
| 12 | 8 | 19 | 中学校 | テーマ (ICT 機器) | ○ ICT 活用研修 |
| 13 | 9 | 16 | 小学校 | 一般 (合同運動会) | ○ 運動会予行練習反省 |
| 14 | 10 | 3 | 小学校 | 一般 (合同運動会) | ○ 小中合同大運動会反省 |

※以下今後実施予定

| 回 | 月 | 日 | 会 場 | 研修領域 | 研 修 内 容 |
|----|----|---------------|-----|---------------|--------------------------------|
| 15 | 11 | 14 | 中学校 | テーマ (学力向上) | ○ 中学校研究授業・授業研究 |
| | 11 | 14 ～ 18 | 中学校 | テーマ (学力向上) | ○ 中学校フリー授業参観 (中学校授業を小学校が参観) |
| 16 | 12 | 14 | 中学校 | 一般 (人権教育) | ○ 人権同和教育 |
| 17 | 12 | 26 | 小学校 | テーマ (教育課程) | ○ 次年度教育課程編成 |
| 18 | 1 | 23 | 中学校 | テーマ (教育課程) | ○ 次年度教育課程検討 |
| 19 | 2 | 6 | 中学校 | テーマ (教育課程) | ○ 次年度教育課程検討 |
| 20 | 2 | 20 | 中学校 | テーマ (教育課程) | ○ 次年度教育課程検討 |
| 21 | 3 | 5 | 小学校 | テーマ (全体研修) | ○ 研究の成果と課題 ○ 次年度合同研修 |
| 22 | 3 | 25 | 中学校 | テーマ (全体研修) | ○ 研究の成果と課題 ○ 次年度合同研修 |

7 具体的な実践

(1) テーマ研修

ア 諸教育活動の実践

① 「弁当の日」の実施

本校では平成19年度から食育の一環として、「弁当の日」を毎年2回実施している。

② 「みどりタイム」の実施

本校では「総合的な学習」の時間の1つに、全生徒及び職員で緑化活動に取り組む「みどりタイム」を設けている。また、以前は緑化担当職員から提示される計画に基づいて活動していたが、現在は生徒に計画や運営にあたるようにさせ、一人100苗を目指して取り組んでいる。さらに、これまでの継続的な取組が評価され「緑化功労者内閣総理大臣賞」を本年受賞することができた。

蒔く花の選定、作業計画などについて、生徒自らが企画・立案する体験を通して、「考え・表現する」力の育成を図った。また、蒔き時や色の種類などを書籍やインターネットなど活用して調べ、話し合いの場で発表する活動も取り入れている。

前期は苗が思うように育たなかったり、灌水を怠ったりしたため、計画通りには活動できない部分があった。しかし、その原因を追究し、改善・改良に向けての話し合い活動を重ねることにより、後期は軌道に乗り始めてきている。現在は、卒業式や入学式を彩る、パンジーやビオラなどが各学年とも順調に生育しているようである。

③ 「キャリアタイム」の実施

教育課程の中に『キャリアタイム』を位置づけ、年間を通じて特別活動や総合的な学習の時間などを使って時間を確保しながら、組織的・系統的なプログラムで実施することにより、課題解決を図ることとした。全学年で共通実施する「オリエンテーション」や「校内ハローワーク」、学年別に実施する「職場体験学習」や「福祉体験学習」など、啓発的な体験活動をその中心にすえて実施している。

イ 小中連携による教育活動の在り方

① キャリア教育の推進

平成19年度から小学校と連携したキャリア教育を推進している。中学生を対象に行っていた「校内ハローワーク」に小学6年生を交え、各種職業に就いていらっしゃる方の講演を聴くことができた。

② 「ふれあいタイム」(朝の活動)の推進

本活動は、全校生徒と全校児童の交流を深めることを目的に、年間に5回程度、朝の活動時間(8:15~8:35)に実施している、昨年度からの活動である。七夕やクリスマスの時期には季節の飾り作りを行い、校区内の福祉施設に届けたり、おにごっこや絵本の読み聞かせ等のレクリエーションに取り組んだりしている。

毎回、生徒会・児童会で事前に話し合いをもち、児童生徒の自主的な運営が行われている。この活動によって中学生には企画力やリーダー性が生まれ、小学生とのコミュニケーションがより円滑なものとなった。また、お互いの交流が深まるにつれ、思いやりの心情も育まれ、児童生徒が仲良く活動する様子が見られるようになった。

③ 合同運動会の実施

夏季休業中に小中で研修を行い、運動会の運営及び準備等の共通理解を図るとともに一人一人の児童生徒の活躍の場をいかに設定するかなどを細かく話し合った。また、保護者の協力をもらい保護者と一体となった競技や教職員も参加する演目などを意図的に取り入れた。

④ 職員のフリー授業参観

小中連携の一環として、本校の全授業を公開し、小学校職員が自由に参観する週間を設定している。

(ア) ねらい

- 両校相互の授業を参観することとおして、教科の特性や指導方法などを知り、指導法改善に生かす。
- 児童及び生徒の実態や教育環境の把握をとおして、今後の支援や指導に生かす。

ウ 生徒同士が互いの存在を認め合う学習活動や学習形態の工夫

- ① 一人一回の研究授業の実施
- ② 外部人材を活用した授業の展開

(2) 一般研修

ア 生徒指導の在り方（情報連携から行動連携へ）

イ ICT機器を活用した授業の在り方

- ① 教員のICT機器活用能力の向上のための研修
- ② ICT活用を図った授業の実施

